

令和5年度 学校評価書（学校経営の方針と重点から）

瑞浪市立瑞浪北中学校

（1）重点1 自ら求め、他と切磋琢磨する中で、生きる力を育てる

具体目標	評価	自己評価と学校説明	改善策	学校関係者評価委員会から	評価
<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人が主体的に学び、獲得した価値や付けた力が実感できる学習指導 自己をじっくりと見つめる心と、他を深く思いやる心を育てる道徳指導 一人一人のニーズを明確にし、自立に必要な力を育てる特別支援教育 地域や社会とのつながりを意識させ、自己を生かし伸ばす進路指導 互いのよさを認め合い、自他の大切さを認めることができる人権教育 探究的学習により、環境に対する興味感心をもち、よりよくしようとする意識を高める総合的な学習 	B	<p>○学習指導を中心に、さまざまな教育活動において生徒の主体性を育てる意識をもって取り組むことができたと考え。特に、特別支援教育については、本校の研究にもかかわる。生徒の「学びにくさ」に向き合い、どうしたら生徒が「わかった、できた」を実感し、確かな学力に結び付けられるか、継続的に取り組んできた結果、特別支援の視点で生徒をとらえ、指導の手立てを考えようとする風土が育ってきたと考える。</p>	<p>●「学びにくさへの支援」を大切にする一方で、過度のおぜん立てを行うことで学習に対する適度抵抗を生み出せない授業になってしまふことがある。より主体的な学習にするべく、教師の出る場面と生徒に任せる場面を精査しながら授業を仕組むことが必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会の発表、課題研究の発表、合唱発表会に参加し、北中の生徒や先生方の真摯さと団結力を感じた。素晴らしい教育環境の中で、これからも他を思いやる心を育て、自立するための基礎基本を指導してほしい。 各種ボランティア活動に前向きに取り組み、地域の皆さんから大変好評だった。 積極的でよいと思う。先生方のご努力は大変なものだと思う。北中コミスクも2年目に入るが、基本方針を変えず進んでいただきたい。 特に、体育大会では「絆」をスローガンに、個人のリレーや団体のむかで競争など、生徒たちのパワーが伝わってきた。先生方も生徒も笑顔いっぱいだった。参観しているほうもパワーをいただき、たのしい時間だった。 多様で対立する意見が生まれる課題場面に出会えなかったが、一人一人はよく考えられるようになっていく気がした。 	A
<p><学校関係者評価を受けての学校の改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> 教科の本質的な魅力を体感させ、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、学びを支える学習集団の育成し、自ら学ぶ中で「わかった、できた」を実感できる学習姿勢の定着を図る。 生徒の「苦手」に寄り添い、学びにくさに寄り添う配慮を、職員間で共有する。 生徒の学力定着の度合いを調査等で数値化し、客観的なデータにより指導・支援の方向を決め、実施する。 					

重点2 生徒に自信と誇りをもたせ、仲間との関わりの中で自己有用感を涵養する

具体目標	評価	自己評価と学校説明	改善策	学校関係者評価委員会から	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・共感的な理解と確かな方向付けに徹し、自己指導能力を育てる生徒指導 ・生徒一人一人のよさを価値付け、自己有用感をもたせる学年・学級経営 ・個の違いを認めながら、集団としてやりきった事実や努力を価値づけ、個や集団の成長を実現する特活指導（特別支援教育の観点を大切にされた特活指導） ・主体性や自治力を育て、学校や地域への誇りや愛着を育てる生徒会活動 	A	<p>○様々な学校行事を復活できる状況になり、行事を核とした特活的指導を通して、「集団を高める指導」「集団の中で個を伸ばす指導」について、職員間で多くの意見を交わしながら取り組むことができた。各学年で、成長に応じた取組みが工夫された結果、生徒に充実感をもたせ、自分や仲間のよさに目を向けられる場面が多く見られた。</p>	<p>●自治的活動としての生徒会活動については、その指導の体系がいまだ確立途中である。生徒自身が、北中をどのような学校にしたいと考え、そのためにどのような組織がどのように動けばよいと考えるか。そのための活動をスムーズに行えるために、見通しを確かにもった年間の活動計画の確立が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方や保護者が子供のよさを見つけて自己有用感をもたせようとする指導には賛同する。これからも、叱るよりほめる指導を大切に、「素直で自分が好きな子ども」を増やしてほしい。 ・個々の意識の中に、役立っているとか、地域から学んでいるというところまでは至っていないと思う。それぞれの意見やアイデアが生かされてこそ、参加・貢献にまで高まると思う。 ・個々の評価ではなく生徒全体を見ることで、個人が伸びていく。 ・釜戸町文化祭ボランティアでは、会場でそれぞれの係をしっかりと仲間と相談しながらやっていた。高齢者の方や小さな子供たちの案内など、頑張っていた。 ・高校で他地区の生徒と生活し始めたとき、堂々と自分の考えが述べられるとよい。 ・集団の中での自分自身の立ち位置を理解していた。競い合うことで力を合わせる大切さを、自然と分かっている様子だった。集団で動く大切さを体験したことは、地域の中に入ったところに自分が役に立つ場所を探ることができるのではないかな。 	B

<学校関係者評価を受けての学校の改善策>

- ・自治的活動としての生徒会活動の充実等を通して、集団と個の両面から生徒の成長を促していく。
- ・特別活動において、見通しを確かにもった活動計画を確立する。

重点3 報・連・相を徹底し、生徒の安全安心、命や身体を守ることを最優先する

具体目標	評価	自己評価と学校説明	改善策	学校関係者評価委員会から	
<p>○危機感と最悪事態のイメージを忘れず、生徒の笑顔を維持する保健安全指導（感染予防を粛々と行いながら、状況把握に基づき、創意工夫した活動を生み出す）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・迅速かつ親身の対応を心がけ、生徒の不安や悩みに寄り添う教育相談 ・日常的な整理整頓と清々しいレイアウト、ユニバーサルデザインの観点からの掲示、週3回の清掃活動の充実による環境整備への意識高揚 	A	<p>○主幹教諭、教育相談担当、生徒指導、学年主任を中心に、時に養護教諭や特別支援コーディネーターを交えながら、生徒の実態・状況の把握と支援の方向決め、必要に応じてスクールカウンセラーや医療機関等への接続といった対応を行うことができた。生徒指導面も含め、生徒の状況を職員間で共通理解するために、週1回の打ち合わせの前に交流を位置付けることで、スピード感をもった対応ができるようになってきた。</p>	<p>●スーパーエコスクールを活用した環境教育については、総合的な学習の時間において2年生でテーマをもって取り組むこととしたが、今後は成果と課題を精査し、来年度以降の動きづくりをすることで、本校でできない活動を創り出していきたい。</p>	<p>学校関係者評価委員会から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ等の感染症に対するきめ細かな指導や、手洗いや歯磨きの表示等を拝見すると、しっかり指導がなされていると感じる。 ・先生方の姿は一生懸命であり、生徒に寄り添う取り組みが実践されている。 ・現状を維持して進めてほしい。 ・今年度も、1年を通して多くの生徒がマスク姿で感染予防であった。生徒の笑顔をちゃんと見ることもできず、顔の一部のみでの（気持ちの）想像を余儀なくされている。SOS など、どんな状態なのかを把握するのに難がある気がする。 ・安全・安心感はあるのではないか。緊急事態が起きたとき、冷静かつ迅速・協力的に反応できるかは、なってみないとわからないと思う。 	A
<p><学校関係者評価を受けての学校の改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・より実際の動きに即した「危機管理マニュアル」の見直しを継続的に行う。 ・生活環境を整える中で、すべての生徒が「安心・安全」を感じられるようにする。そのための委員会活動を充実させる。 					

重点4 地域の一員としての自覚を高め、主体的な地域連携ができる人間を育成する

具体目標	評価	自己評価と学校説明	改善策	学校関係者評価委員会から	評価
<p>○かけられた期待や置かれた立場を自覚した主体性のある地域連携</p> <p>※コミュニティ・スクール発足年である今年度、保護者・地域への周知とともに学校運営協議会との連携を図りながらできることから無理なく着実に取り組んでいく。</p>	<p>A</p>	<p>○学校運営協議会のメンバーを各行事にお招きして生徒の様子に触れていただくとともに、感想を生徒に伝えていただくことで、生徒が「地域の一員である」ことを自覚する機会ができた。コミュニティ・スクール初年度として、無理のない範囲で活動を進めることができた。</p>	<p>●地域からはボランティアの要望が数多く寄せられたが、地域間での調整がコミュニティ・スクールの組織で行えるとはよいのではないかと考える。また、生徒の側から地域に発信する手段と機会を考えていきたい。</p>	<p>・資源回収や土岐川ボランティア清掃での働く姿、地域の方々と協力する姿、中学生同士声を掛け合う姿に、清々しい心情をもつ生徒が確実に育っていると感じます。地域にいて登下校時に顔を合わせたとき、自然な笑顔で挨拶してくれる姿を、いつも嬉しく感じています。先生と生徒の信頼関係があったればこそと評価しています。</p> <p>・校区が広がれば地域の理解や密着度が希薄になるのは避けられませんが、校区内外の地誌学習や地域ボランティア活動の実践を通して、地域全体を視野に入れて考えられる人物の育成につなげていっていただきたいと思えます。</p>	<p>A</p>

<学校関係者評価を受けての学校の改善策>

- ・生徒発の地域への情報発信のあり方を、さらに工夫していく。
- ・地域ボランティアへの参加等、校外活動の評価を充実させられるよう、地域との連携をより密にする。